

特別分科会 心の教育

第2分散会 研究課題 豊かな感性と他人を思いやる心の教育の推進と校長の在り方

研究発表 ハートフル四宮「出会い・ふれあい・学び合い」

—— 地域の人々とのふれあい体験学習 ——

大阪府 門真市立四宮小学校 平野 忠雄

趣 旨

21世紀を迎えた今の世の中、科学技術の一層の進展により一昔前では考えられなかったスピードで変化を続けている。ものは豊かになり、生活はそこまで必要とするのかと思うほど便利になっている。しかし、そのことに比例するかのように失ったものも数多い。子どもたちにとっては、自然との豊かな出会い、ともに活動することによる人との出会い、ふれあいなど、体験が少なくなることにより豊かな心が育ちにくくなっている。このような状況の中、子どもたちに、自ら学び、考え、表現する力や他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性としての「生きる力」を育むことが大きな課題となっている。

本校では、ハートフル四宮「出会い・ふれあい・学び合い」を柱とし、学校から地域へ学習の場を広げ、人と関わり、行動し、その中で自分のよさを知り、よりよい自分をめざして周りの人と共に伸びようとする子どもの育成に努めている。

地域社会は、学校の中だけでは決して味わうことのできない豊かな体験を引き出す宝庫でもある。障害のある方、高齢者、身近な同年代の仲間とはちがう異世代の地域の方々との具体的なふれあい体験活動は、自分とは違った経験を持ち、価値ある活動をしている人のすばらしさを実感できる。また、人を見つめたり、関わったりすることを通して、人のよさを感じるだけでなく、自分自身を再認識することにもつながっている。地域の教育力を活用する中で、さらに連携を深め、21世紀を生きる子どもたちに、豊かな人間性や社会性を培っていき、家庭や地域にとって信頼される学校に近づけたい。

研究の概要

1 地域および学校の状況

本校は、門真市の南東部、国道163号線と八尾・枚方線に囲まれる位置に学校があり、現在市内にある17小学校の中でも児童数が最も多く、児童数763名、24学級（養護学級含む）の学校である。少子化による児童数が減少傾向に

ある学校が増えている中、本校は逆に増加傾向にあり余裕教室もなくなりつつある現状である。

今年で129年を迎える長い歴史と伝統を持つ本校は、古くからの地の家も多くあり、中には三世代にわたって本校に学んだ家庭もある。そのためか、学校に対しては協力的で、総合的な学習のゲストティ・チャ・やクラブ活動の支援者として、地域の方からいろいろな応援・支援をいただいている。このことは、子どもたちにとって、人とふれあうことの楽しさやほんものとの出会いの素晴らしさを感じる機会となっている。また地域・PTA活動も活発で毎年10月に行われる校区体育祭は、地域の一大行事で自治会を中心に、子ども会、PTA等教育関係諸団体との緊密な連携のもと実施されている。子どもだけでなく、大人も競技に参加し、地域の親睦をかねたぬくもりを感じる大会である。大人の子どもをみるまなざしも温かい。PTA行事としては、カレーづくりを行っている。6月の日曜参観後、低学年（大玉送り）、高学年（綱引き）の親子交流会で汗を流し、親子でカレーをいただく本校恒例のふれあい事業である。親子ともに楽しみにしている行事で、年々参加者が増え本年度は1500食を用意したほどもりあがっている。またPTA学年親子交流会も各学年とも趣向を凝らし、親子ゲーム、草木染め、豚汁作り等生活科及び総合的な学習の時間を活用した「ぬくもり」のある取り組みとなっている。

児童クラブ活動の支援ボランティアとしては、昨年度から卓球クラブ、茶道クラブ、工作クラブに、地域で活躍の方を招いて支援をいただいている。専門的な知識、技能を持っている方々ばかりで児童の上達も早く、どの子どもクラブの日を楽しみにしている。

本校の玄関には、創立百周年を記念して建立されたモニュメントがある。その台座には次の様な言葉が記されている。「この庭に 百回花が咲き 陽が輝き もみじし 雪が降り この門を何人くぐり 出たことか そして これからも…」地域の人々の学校に対するや熱い思いがこめられており、学校が担っている役割の大きさや責任の重さを強く感じる言葉である。

2 豊かな心を育む取り組み

「出会い・ふれあい・学び合い」をこばに、地域の人々とのふれあい体験学習を通して、豊かな心と感性を育んでいく。

(1) 研究目標

豊かな心情の育成
共に伸びようとする心、自然・生命を大切に作る心、

美しいものに感動し、周囲の人々に感謝する心の育成

実践的な能力・態度

自分を表現する、自分の目標を立てる、自分の考えを持ち、自主的に行動する能力・態度の育成

福祉・ボランティアに関する関心・態度

福祉活動、福祉施設、自然、生命についての関心・態度の育成

(2) 研究内容

【豊かな心情】

自他のよさを認め、共に伸びようとする心の育成

自然・生命を大切に作る心の育成

「ふれあい体験活動」を通して、自分のよさを知り、よりよい自分をめざして、周りの人とともに伸びようとする子どもの育成

【実践的な能力・態度】

自分の判断で、自己を認識する能力の育成

自分らしさを生かし、自己を実現する能力・態度の育成

友達と協力して、課題を解決する能力の育成

「ふれあい体験活動」を通して、自分の考えや思い・願いを持ち、自主的に活動することができる子どもの育成

【福祉・ボランティアに関する関心・態度】

自然・生命に対する関心・態度の育成

身近な公共施設への関心・態度の育成

「ふれあい体験活動」を通して、環境や公共施設に興味を持ち、よりよい環境づくりのために、自分の力を生かそうとする子どもの育成

(3) 各学年の目標と取り組み

1年生 - 学校生活になれて自分を生き生きと出せる子

こいのぼり集会、七夕集会、マラソン大会、幼稚園・保育園との交流

2年生 - 相手の話をよく聞き行動する子・相手の気持ちをしっかり考える子

町たんけん、自然体験、老人ホーム見学、生活たんけん

3年生 - 自分の思いを表現できる子

畑作農家見学、校区内めぐり、命と成長の学習、れんこん掘り、社会見学<環境センター・リサイクルセンター>、車椅子体験、珠算学習・手話学習

4年生 - 自分で考え、進んで学ぶ子

社会見学<環境センター・下水処理場>、盲導犬の話、アイマスク体験、JSステージ<知的障害者通所更生施設>との交流

5年生 - 自分たちの力で考え、行動できる子・自分も仲間も大事にする子

くすの木さつき園<就学前障害児通園施設>との交流
稲作体験、校区の工場見学、性教育講演会

6年生 - 自ら進んで考え、主体的に活動できる子

性教育講演会、平和教育講演会、修学旅行報告会、高齢者との交流会

3 学年の実践例

- 1年生 -

毎年、もうすぐ1年生になる校区の保育園や幼稚園の子どもたちと楽しい交流の時間をもっている。司会や進行も子どもたちで行い、ゲーム遊びコーナーは手作りで、時間をかけたものばかりだ。優しく世話をしたり、精一杯演技したりで上級生の自覚が芽生えた貴重な時間であった。



1年生
幼小交流

会で

- 2年生 -

老人ホームを訪問して、合唱、合奏、朗読の発表、その後伝承遊びを一緒に楽しみ、最後に子どもたち全員が肩たたきをした。高齢者の方々に大変喜んでいただいた。子どもたちは、普段とは違った何とも温かな雰囲気にならなれて「楽しかった。行ってよかった」と感じていた。



2年生 老人ホームでの交流

- 3年生 -

性教育では、助産師さんの話を聞くことにより、命の誕生の神秘と、個々の生命の大切さを学んだ。この学習では、さらに家族にインタビューをしたり、自分の成長の写真を使ったりして、誕生したことへの意識を強く認識させることができた。

車いす体験学習では、押す方は重くて大変だが、押ししてもらう方はとても怖いことを実感し、車いすで生活する人の大変さに気付いたようだ。

3年生 命の話



- 4年生 -

2学期(11月～12月)に2クラスずつ2回に分けて、JSステージを訪問した。

やり方を教えてもらいながら、一緒に学習材を袋に詰めたり、紙すきを手伝ったりして交流した。最初は、戸惑っていた子どもたちも、障害を乗り越えてがんばっている人たちとふれあうことにより、次第に、その場の雰囲気になじんでいった。もっと、時間があればとかグループの人数等の検討課題は残ったが、人を思いやり、ともに生きることの大切さを感じとるきっかけになった。



生 JSステージでの交流

- 5年生 -



くすの木さつき園との交流会を、年間を通して継続的に行った。1学期は、クラスごとにグループに分け、延べ3日間にわたって、園を訪問した。それぞれに歌と一緒に歌ったり、七夕作りやプール遊びを楽しんだ。2学期は学校へ招待し、劇や歌を披露したり、魚釣り、ボーリング、塗り絵のコーナーを設け園児に楽しんでもらった。また、おみやげとして、子どもたちが作ったふきんを園にプレゼントし、喜んでいた

くすの木さつき園との交流 だいた。年末には、しめかざりを作り園に飾っていただいた。

- 6年生 -



6年生 高齢者の方々と
ふれあい交流



4年

3学期に校区在住の高齢者の方々24名を招き、ふれあい交流を行った。高齢者の方々との交流は、すでに修学旅行報告会への招待や年賀状を送るなど実施しており、今回は3回目で『編み物・ぜんざい作り・こま・ケン玉・わら縄づくり』の各コーナーに分かれ、教えてもらったり、いっしょに楽しんだりした。また、給食

まとめ

もいっしょに楽しく食べていただいた。「とっても楽しい時間でした。子どもたちと遊ぶのが久しぶりだったので、とても嬉しかったです。」「本気で遊びました。大変、楽しかったです。」「給食を食べるのは、一生のうち今日が初めてです。とっても、嬉しくて仕方ありません。」「等、数々の感謝のことばをいただき、子どもたちには、高齢者の方々のやさしさや温かさにふれる機会となった。

本校では、人権・福祉・ボランティア学習をベースに、地域の様々な人とのふれあい体験活動を積み重ねてきた。子ども達にとって、地域の方々と出会い、身近な人々から学べるということは、学校の中だけでは味わえない学びの世界を広げることにつながっている。そして、地域との交流が多くなる中で、子どもの安全対策、環境美化についても連携・協力体制が進み、以下のような取り組みも行うことができています。

4 子どもの安全対策と 環境美化の取り組み

子どもの笑顔は みんなの願い
学校・家庭・地域のネットワークづくり

(1) 子どもの安全を守るための主な取り組み

- ステッカーを自転車につけて校区を見まわる。
- ・青少年育成協議会 ・PTA実行委員会
- ・校区自治会

ステッカーをつけた自転車同士がすれ違うとき、子どもの安全への連帯感のような気持ちがわき上がり好評である。

青少年育成協議会の校区内パトロール

- ・月末の日曜日、各自治会単位で危険箇所、コンビニ、公園、商店等の巡視活動を行う。

安全ボランティア活動

- ・1年生の交通事故を契機に、校区の交差点を中心に子どもの下校時を見守る。
- ・各家庭にボランティアを募り、実施してきた。延べ400人以上の協力を得た。

(2) 環境美化への取り組み

青少年育成協議会による美化活動、門真クリーン作戦と連携

- ・校庭の草抜き、溝掃除、公園の空缶・ゴミ収集を行う。9/1残暑厳しい中、地域、保護者、教員250人の参加をみる。

PTA環境整備委員会による溝掃除、ゴミ収集

・年2回、9月と3月に奇数学年、偶数学年に分けて実施する。

- ・毎回40数人の方が参加している。

ボランティアによる花の栽培、美化活動

- ・玄関横の花壇に四季折々の花の栽培をしている。
- ・花の植え替え、水やり、草抜き等こまめにしている。
- ・子どもたちの豊かな心の成長の一助となっている。

子どもたちは、いろいろな方々との「出会い」や「ふれあい」を楽しみにしている。そして、そのことが一人一人の活動意欲を生み出す源となっている。また、教職員の意識も子どもたちがそうした活動の中で見せる楽しそうな顔や生き生きした態度にふれることで変わりつつある。

6年生の修学旅行の報告会に招かれた地域の高齢者の方が「先生、勉強になったわ」「子どもたち、よくがんばってるね」等の感想を口にされ、それを聞いた先生たちが「たくさん来てくれた上、あんなことを言ってくれるのうれしいわ」と言われ力を得たこともある。また、地域を意識した取り組みは、教職員が地域行事に多く参加していくことにもつながっている。

今、地域・家庭の一層の協力を得ていくためには、学校をさらに開いていくことが不可欠となっている。そして、学校が地域や家庭に何を期待し、どんな力を必要としているかを教育目標や教育活動の具体の中味、子どもの状況等をていねいに説明し、理解と協力を求めていくことが大切となっている。そのための道筋はできあがりつつあるが、まだまだ解決すべき課題が山積している。

今後も教職員の共通理解はもちろん保護者や地域とさらに連携し、豊かな感性と他人を思いやる子どもの育成に取り組む学校経営をめざしていきたい。